

兵庫県のオオウラギンヒョウモン

尾崎 勇

オオウラギンヒョウモンは本州、四国、九州に分布し南西日本では平地及び山地に生息するが産地は局地的である。

兵庫県西部においても産地は局地的で海拔500 mから800 mの高原に生息地があり、平地での発生地は無くその生息地を離れるとあまり見かけなくなる。

発生は年一回で兵庫県西部では遅く7月中旬頃より♂の飛翔が見られ最盛期は7月下旬である。秋にも飛翔が見られるが色はあせ汚損している個体が多い。飼育用の採卵にはこの時期の♀を採集し採卵すれば良い。

生野町生野高原、関宮町杉ヶ沢高原、同町東鉢伏等に多産地があり、その他峰山高原、砥の峰高原、三室高原でも少しは採集されている。佐用郡や赤穂郡、宍粟郡では生息地は見えていない。低地での発生は見られず500 m～800 mの草原にて局所的に発生している。

♀の発生は非常に少なく♂15に♀1ぐらいの割合と思われる。

生野高原産および杉ヶ沢産並に東鉢伏産の個体を比較して見ると生野産は前翅長10♂♂の平均直38.4%杉ヶ沢産7♂♂の平均直35%東鉢伏産20♂♂の平均直34.8%で、生野高原は海拔500 mであるが平地産と大きさにおいては変わらず他の2産地より大きい。

杉ヶ沢産は東鉢伏産と大きさは変わらないが翅表面の地色が少し黒く前翅表外縁の二列の黒斑列の間にある橙色斑紋が小さいので全体が黒く見える個体が7♂♂の内3♂♂有り生野産および杉ヶ沢産では見られない。

オオウラギンヒョウモンは開発、植林のため非常に少なくなり採集に行っても確実に採れる所が少なくなった。生野高原はゴルフ場と成り全滅した様である1975年と1976年に採集に行ったが姿すら見かけなかった。

杉ヶ沢高原も大部分が開墾された大根畑となってしまった。だがまだまだ新産地はあると思われる。生野高原北側の段ヶ峰の峰続きである笠杉山西斜面(一ノ宮町千町部落の奥)や佐用郡の北部、ま

た、県西部の美方町、村岡町、温泉町等には多産地もありそうである。同好諸兄も新産地の開発に努力されたい。姫昆には初心者の方諸兄も多くおられるので次に生息環境を記す。

1. 背のあまり高くない植物のしげる草原である。
2. 近くに雑木林が有り半湿地でスミレ類の成育に適切である。
3. 吸蜜植物であるオカトラノオやアザミ類の花が多く咲いている。

この様な所には他のヒョウモン類も飛んでいる。近似種ウラギンヒョウモンはこの時期には汚損個体が多くオオウラギンヒョウモンは少し赤ぼく見え、慣れると飛翔中でも判別出来る。オオウラギンヒョウモンは大型ヒョウモン類中一番ゆるやかに飛ぶので採り逃がすことはない。

何かまとまりのないことを書いたが私達の廻りの環境が急激に変貌しつつあり早く本県地域の蝶相解明を進めたいものである。

末筆ながら本稿を草するに当たり採集等でお世話になった広畑政己氏ならびに森下泰治氏に厚くお礼を申し上げます。

(S. 26: 明石市)

佐用郡産オオムラサキの

スギタニ型 広利雅美

佐用付近では裏面の黄色い関東型にまじり白色型の関西型も4割ぐらい見られますが、1977年6月30日に当地で後翅肛角部の赤斑が白色に変じている、スギタニ型と言われる白化の顕著な個体1♂を採集しました。兵庫県内では採集例が少ないと思われるので報告します。なお佐用郡産の越冬幼虫50匹を木村三郎氏に飼育依頼した結果1978年6月に3♂2♀のスギタニ型を飼育羽化することが出来ましたので合せて報告させていただきます。飼育等でお世話になった木村三郎氏に厚くお礼を申し上げます。

(J 23: 佐用郡三日月町)